

1 年生 前期 選択必修

授業科目 [保育原理]

目的・ねらい：

子どもが人やもの、事柄と主体的にかかわる経験を通して学び、構築していく人間関係のありようについて理解する。また、保育者として、子どもが他者とかかわりさまざまな経験を積み重ねられるように配慮しながら環境を構成したり、援助をしたりすることの重要性について学ぶ。また、自身の人間関係について振り返る機会を持ち、人とのコミュニケーションのあり方を考察する。

到達目標：

子どもの人間関係の育ちを支える保育者としてのかかわりについて自分の考えを述べることができる。

子どもの「個」の育ちを大切にしたかかわりを考えることができる。

子どもの愛着・協同性を育むためのかかわりについて話し合うことができる。

到達目標		レベル 4	レベル 3	レベル 2	レベル 1
知識・理解	子どもの人間関係の育ちを支える保育者としてのかかわりについて自分の考えを述べることができる。	保育の意義・目的や保育の基本を十分に理解し、子どもの人間関係の育ちを支える保育者としてのかかわりについて自分の考えを論理的に述べるができる。	保育の意義・目的や保育の基本をおおむね理解し、保育者としてのかかわりについて自分の考えを述べることができる。	保育の意義・目的や保育の基本の理解が不十分であるものの、保育者としてのかかわりについて自分の考えをある程度述べるができる。	保育の意義・目的や保育の基本の理解が不十分であり、子どもの人間関係の育ちを支える保育者としてのかかわりについて自分の考えを述べるができない。
	子どもの「個」の育ちを大切にしたかかわりを考えることができる。	履修内容を十分に理解し、子どもの「個」の育ちを大切にしたかかわりを自分なりに考え、意見交換することができる。	履修内容をおおむね理解し、子どもの「個」の育ちを大切にしたかかわりを自分なりに考えることができる。	履修内容の理解が不十分であるものの、子どもの「個」の育ちを大切にしたかかわりをある程度考えることができる。	履修内容の理解が不十分であり、子どもの「個」の育ちを大切にしたかかわりを考えるができない。
	子どもの愛着・協同性を育むためのかかわりについて話し合うことができる。	子どもの愛着・協同性を育むためのかかわりについて履修内容をもとに自分なりに考え、積極的に話し合うことができる。	履修内容をおおむね理解し、子どもの愛着・協同性を育むためのかかわりについて自分なりの考えを持ち、話し合いに参加することができる。	履修内容の理解が不十分であるものの、子どもの愛着・協同性を育むためのかかわりについてある程度自分なりの考えを持つことができる。	履修内容の理解が不十分であり、子どもの愛着・協同性を育むためのかかわりについて自分なりの考えを持つができない。
課題	授業内に課される課題への記述内容	課題の内容を完全に理解し、記述できるすべての項目に適切な内容で答えることができる。	課題の内容をおおむね理解し、記述できるすべての項目に適切な内容で答えることができる。	課題の内容の理解は不十分であるが、記述できるすべての項目に答えることができる。	課題の内容の理解が不十分であり、回答できていない項目がある。